



入山事務局長（左から2人目）から音楽祭のオリジナルグッズについて説明を受ける学生ら



青い海と
森の
音楽祭

東奥日報社などつくる青い海と森の音楽祭実行委員会は15日、今秋の第2回音楽祭に向け、青森公立大学（青森市）と初の合同会議を開いた。両者は1月に連携協定を結んでおり、学生が公演のPRや運営支援、コラボ商品開発などに

公演「楽しみ」「成功を」 青公大生と実行委 意見交換

取り組む予定。プロジェクトへの参加を希望した学生会メンバーのうち10人が出席し、実行委の入山功一事務局長と意見を交わした。

「青い海と森の音楽祭2026」（10月31日～11月8日）では、11月3日に同大学講堂で室内楽公演が行われる。

大学内で開かれた会議には同大学の高坂幹理事長ら

も出席。学生たちは音楽祭の新たなグッズの案を披露し、「運営に携われるのは貴重な機会。楽しみながら多くのことを学べたら」皆

さんと協力して成功させたい」などと意気込みを語った。学生会長の太田ひかりさん（3年）は「私たちの世代はSNS（交流サイト）が強みなので、発信を頑張りたい。公立大らしいグッズの開発もできれば」と話した。

実行委と同大学は今後話し合いを重ね、具体的な協力の在り方などを決める。

入山事務局長は「新しい時代の音楽祭。日本のクラシック音楽祭の先進的などころに身を置いていると思って、どんどんアイデアを出してほしい」と学生に呼びかけた。（藤本耕一郎）